

ワークショップW1-2 やって良かったシミュレーショントレーニング ～第一種装置による緊急対応を経験して～

坂上正道¹⁾ 濱田倫朗¹⁾ 米原敏郎²⁾

- 1) 済生会熊本病院 臨床工学部門
- 2) 済生会熊本病院 脳卒中センター 神経内科

当院では、2011年よりシミュレーショントレーニング(写真1)を実施している。

当初の目的は、実臨床では経験することが難しい、緊急対応スキルの習得にあり、高気圧業務に熟練した技士がシナリオ(図1)を作成し、スタッフ全員でトレーニングを実施した。担当者全員で取組むことで様々な問題点やスタッフ間で処置対応に違いがあるなどが明確になり、業務の標準化やスタッフ間の処置対応統一による患者満足度向上が期待できる。一方、新人教育の時点から実施することで個々のスキルアップや現時点での基礎知識の把握が出来る。

今回我々は、加圧完了後に患者状態が急変し緊急減圧が必要となった症例(図2)において、シミュレーショントレーニングによる緊急対応スキルが活かした経験をした。シミュレーショントレーニングでトラブル発生時の対応を訓練していたことで、その手順の優先順位が明確で、落ち着いた行動が可能であった(図1)。急変コールにより駆けつけた医師・看護師に対しても、的確な状況報告と状態説明により理解を得ることで、万全の初期対応につながった。

実臨床において事前に体験することのできない事態をシミュレーショントレーニングで訓練しておくことで、いざという場面に遭遇しても余裕を持った行動が可能となり、アクシデントの拡大防止につながったと考える。トレーニングの必要性を再認識する一例であった。

写真1



経過時間	患者状態	血圧	脈拍	スコア	PC操作と設定	設定値	設定値の変更
(加圧開始)		115/61	72	加圧開始も通知できる	Standard Menu 起動 View NBP Setup Start Cycling Edit Alarms Suspend	1.0min	
(加圧完了)				加圧完了も通知できる	Cardiovascular Heart Cardiac Rhythm Override		alarm
(減圧開始)	患者の訴え	116/58	100	機血性説明、経脈を促すことができる		Fixed Heart Rate	100bpm 脈拍100以上
(減圧完了)	経脈が止まり機血性説明	116/52	72	経脈が止まる	Heart Cardiac Rhythm Override		VPC 予警報
	予警報出現	136/46	88	記録ができる			VT
	予警報出現		110	経脈連絡、脈拍数がわかる	Cardiovascular Systemic Baroreceptor Maximum Pressure		100 経脈閉塞圧10未満
				急変コールボタンを押すことができる			
				治療中止し緊急減圧開始できる			
(減圧開始)				減圧開始も通知できる			
(減圧完了)				緊急に患者を救出できる			

図1

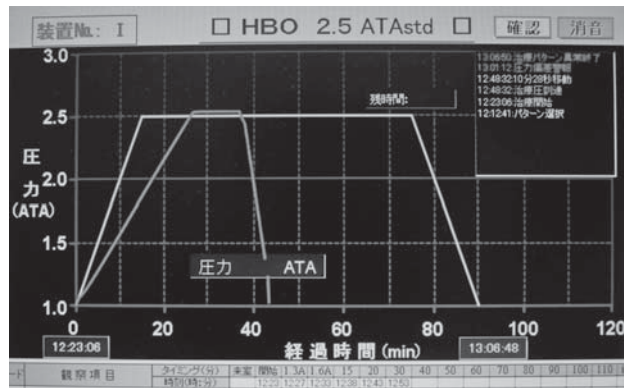


図2